
神のおしおきゲーム

澪香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神のおしおきゲーム

【著者名】

Z9558Z

【作者名】

澪香

【あらすじ】

お父さんの仕事の事情でO県に引っ越してきた少女　山田琴音と
天使　ミカエルがえがく　ファンタジー物語です

第一話 天使 現れる！！！

「ねえ神様つていると思つ？？」

「ええいるはずないじゃん！..」

そんな空想の世界の人物なんかいるはずない・・・そう思つていた

「たしかにでもいたら楽しそうじゃない琴音？」

そう言つて篠岡萌は私に質問してきた

「いたら楽しいかもね」

もちろん嘘だ・・・いてもいなくとも人生なくも変わらないだろう

あと私の名前は山田琴音やまだことねだ

「そうだねえ楽しそう」

キンコーンカンコーン

そう言つていつもとあんまり変わらないファンタジックな話は終
わった

帰り道

たしかに神様がいても別にいいと思うがいたとして地球上の大人
数の人間の願いをどうやってきくのだろうか・・・

家

「ただいまー」

ソファにすわり机の上のチラシをよける・・・

「な・・・なにこれ！…！」

私は突然、声をあげた

「この家が売られているのだ

「お母さん・・・」れ！…！」

「ああ引っ越すから売ったのよ・・・あつ言ひてなかつたつけ。荷物まとれといでねー」

「ねえどりじて引っ越すの？？？？」

「お父さんの仕事の事情よー」

「う・・・嘘でしょ・・・何かのまちがい・・・そう思つた

「ただいま」

お父さんが帰ってきた

「お父さんー、びりして引っ越すの？」

「会社が倒産したんだ・・・だから前に住んでた〇県に引っ越すんだよ」

「と・・・倒産」

次の日

今日は金曜日・・・引っ越しの日は土曜日と言っていたので今日は皆にお別れを言わなくちゃいけない

キンコーンカンコーン

結局、お別れができないまま引っ越しことになった

〇県

「じいが新しい家・・・前にお父さんが住んでたから、ちょっと汚い・・・

月曜日

今日は新しい学校へ

「転校してきた山田琴音です。よろしくお願いします」

休み時間になると3人の女子が話しかけてくれた

「ねえ何処から引っ越してきたの?」

「どうして引っ越してきたの？」

「今度、遊ばない？いろいろ案内してあげる」

そんなことを言われ、放課後には友達といふるべらいまで仲良くなった

次の日

私は一人で学校へ机にはシネなどひどい言葉ばかり

「な・・・誰がこんな事を・・・」

「私がやつたの・・・いきなり転校してきて、それだけでもウザいのにすぐ皆になじんで、ウザいんだよねそういうの…」

後ろから声がした振り向くとクラスの中心人物の杉本里奈すぎもと りなだった

「なんでこんな事するの？」んなのイジメだよ……

「え？何て言ったの？聞こえな———」——「私のお父さんはこの校長よ変に言つとどうなるかわかつてるの」

なんて女だ・・・私はそう思った

休み時間

里奈のせいなのか話してくる人は誰もいなかつた

家

「こんなときに神様がいたら・・・そつ思つた

ピロワーン メールの音だ

なんだろ？・・・

宛て先 神

件名 契約

本文 神と契約し悪人をおしおきしたいのなら
下の部にサインしてください

――――――――――――――――――――――

神と契約？？ホントだつたら凄いことだ

私は遊び半分でPCで使つてるサインを書き送信した

そのときだつた周りが白く光、気がつくと雲の上…？にいた

「あわああ

「どうしたのですか？」

そこには1人の少女

「お・・・・おちるだろ・・・あれ・・・なんでおりない・・・」

「エリは時空の歪みでちょっと変なんですよ」

・・・意味不明だ説明が変なのかそれともココが変なのか分から
ない

「あなたは神と契約しました。契約条件として悪にならない事、善
を突き通す事、天使である私と行動をともにすることですが、よろ
しいですか？」

・・・せつぱり意味がわからんぞ

「ていうことは、お前は天使か？」

「はい……ミカエルともうします」

なんて」ひた神が本当にいるとは・・・

「分かった・・・契約する」

「はい……分かりました」

そういうことミカエルはペココとお辞儀をし、ビニカへ走つていった

気がつくと自分の部屋にいた

第一話 木下みかん？現る

気がつくと自分の部屋にいた

次の日

里奈ははたして悪人に入るのだろうか……

キンローンカンローン

今日もいちだんと机に落書きが……先生は気づいてるのだが気づかないふりをしている

「きょ……今日は転校生がきています」

ドアが開きそこから出てきた人はどうからどうみてもミカエルだった。

あいつはいじめの対象になりやすそうだ

「えつと……その……木下ミカエルです」

男子にはだいぶ評判があり、里奈は手を出しづらいやしい

みかん《ミカエル》とはなぜか隣の席だった

「あつ……琴音さん契約条件のためにここに転校してきました」

ペーリとみかんはお辞儀をし席に座った

「ウザイ」

ぼそりと聞こえた里奈の声・・・みかん・・・ドンマイ

休み時間

「あのあ・・・もしかしてあそこにあるかたが悪人の対象ですか?」

「あつああ私からしたらだけどな・・・」

「たしかに氣の強そうな感じでよく死ねとかウザイとか言っていますよねえ」

「じやあさつそく神のおしおきを始めますか?」

「待て待て待て待て待て待て説明しろ・・・」

「あつしませんでしたっけ・・・」

「昨日ひょっとあつただけと今はなしてだけだる・・・」

「ああ忘れてましたアハハー・・・はつきりいってやってみないとわかんないですよ?」

みかんは笑顔で笑つていった・・・

「じゃあさっそくやりますね・・・神ロード・・・オープン」

みか・・・嫌・・・ミカエルはそういう手と手でパンと音を鳴らす

「あつあれはなんなんだ！？？」

私は指を指す・・・そこには黒い物体があった

「あれは悪のかたまりです。あれを消し善だけの世界にする、それが私達、天界の住人の計画です」

第三話 神のゲームの始まり！！

「あれは悪のかたまりです。あれを消し善だけの世界にする、それが私達、天界の住人の計画です」

計画・・・ねえ

「じゃあいきますよお・・・女神流第1機・神術の刀！」

ああこれは非現実的な

「琴音さん！これで悪のかたまりを斬つてください！-」

「斬るつて……あれをーー！」

「はー！」

無茶を言うなこの天使は！！

「私に悪を斬れと・・・」

「あのお斬りないと里奈さんの善惡の悪が消えません!! 最低限に斬らないと、いじめも終わりません!!」

なるほど・・・って死ぬ可能性もあるんじゃないかあ??

「えつともしかして命がけ？？」

「あたりまえじゃないですか！！」

ミカエルは予想以上の笑顔で言った・・・ちょっと不気味に見えた

しかたない・・・言い訳しても終わらないだろう・・・

私は、悪のかたまりに向かつて走る・・・

「おりやああああああああ！」

ぐにゃ

突き刺した感触が気持ち悪い・・・

「おおさすがです！！」

さすが・・・って私は特に剣道とか習つてないし普通の人間だぞお

「あつ琴音さん！後ろ！――」

私は後ろを向くと悪のかたまりがもう目の前にいた

「キヤアアアア――」

私が悲鳴をあげる

「女神流第3機・神の盾！」

目を開けてみてみるとなぜか生きている・・・周りには何か迷路のよじな不思議な模様の丸い物体の中に入っていた

「だ・・・大丈夫ですか？？」

ミカエルだつた

「ああ大丈夫だ・・・つてお前も戦えたのか！！」

第四話 黒奈の真実

「ああ大丈夫だ・・・ってお前も戦えたのかーー！」

「はいーーー」う見えても天使ですからーー！」

血漫ザニアカエルが言つ

「それより早くしないと、悪のかたまりが増えちゃいます」

私を囲んでいた物はパズルが崩れていいくよに消えてった

「おりやあああああああああ

私は刀で悪のかたまりを斬つていく

「あれーーーあれですーーーあれを斬れば終わりです」

「よつしゃーおりやあああああ

なんだ今までとは何かちがう

「それは本人が抱えている悩みのかたまりですーーー！」

悩み・・・黒奈にもあるのか・・・

グチャアア

なんかマジでやばい音だ人殺しみたい

ベシ弔

まだまだ

グシャ グシリ

悩みのかたまつは綺麗に光きえてこつた

「終わりです。お疲れ様でした」

ミカエルがさういひと、こいつの間にか教室に戻っていた

「な・・・あれ? ?」

私がそつこいつ//ミカエルは

「どうしたんですか? ?」

と謎問な言葉を言ひてくる

「どうしたじやない、なんも変わつてないじやん」

「変わりましたよつ―――」

ミカエルは自信満々に言つた

「どうが・・・どうが変わつたんだよ―――」

「変わりましたよ―――話しかけて見て下わ――」

「えつ、じゃあ、里奈・・・さん?？」

「ん? ああ 転校生! の琴音? ? ? ? だつけ?」のまえは「メイン魔がさしただけ!! 今は楽だなー」

あれ? 前とだいぶつていうかかなりちがうー!

「やうなんだー!..」

「あのやーーー今度あそばない私の家さあ結構大きいんだー!..」

「うんーー..」

放課後

「琴音? ? ? 琴音って北方面? ? ? あつ一緒に帰んなーい? ? ?」

「うんーーいよ

帰り道

「私ね、実際、友達いなかつたの・・・だから、私はお父さんがエライからつて事を使つて友達っぽく見せてたの・・・本当の友達じやなくて偽友達だった」

里奈はこういふ事情を話してくれた。

さうに友達になつたーし、里奈の家がマジで豪邸でスゴいと思つた

第五話　里奈の家！！

帰り道

「私ね、実際、友達いなかつたの・・・だから、私はお父さんがエライからって事を使って友達っぽく見せてたの・・・本当の友達じゃなくて偽友達だった」

里奈はいろいろ事情を話してくれた。

さりに友達になつた！し、里奈の家がマジで豪邸でスゴいと思った

「じゃあ、あとでえーー

遊ぶのは今日ーー豪邸だからちょっと緊張してるんだけど、友達の家だしふつうでもいいよね

家

「おかし、おかし・・・あーこれ」とじよーーー

遊ぶときはおかしを持つていぐー私の「あたりまえ」ってやつだ
！！

私はそれから、すぐに家を出て里奈の家に向かつた

ピンポン

「えつと山田琴音・・・えつと里奈さんの友達ですか？・・・」

「ああーお友達！…めずらしく……れりはこつて入つて…」

里奈のお母さんは強引に私を家に入れた

「あの、里奈は？？」

「ああーあの子は一階の部屋だつたわー…里奈ー…友達ー…」

里奈のお母さんは大きな声で里奈を呼ぶ

「ああーわかつた…・・・今いそがしいからねー」

里奈のお母さんはため息をつきながらも私を誘導せん

「しようがない子だなあー誰に似たのかしら…」

ボソボソと里奈のお母さんを囁く

「…」が里奈の部屋…ノックしなこと怒られたから扉をつけて…

里奈のお母さんはいつも残すと一階に下つてこつた

トントン

私は里奈の部屋のドアを二回叩く

「誰？？」

里奈の声だ…

「琴音だよーー！」

私は質問に答えた

「うん！入つていいよーー！」

里奈は元気だ、私はたまについていけなくなる

ガチャ

私が入ると里奈は不思議な機械に入っている

「何それ？？」

私は不思議な機械を指差しながら言った

「これはね、えつとなんだっけ・・・まあ入ると落ち着くの心の底
から」

里奈は笑つて言つ・・・ちょっと不気味に見えた

ピンポーン

あつみかんかな？？みかんも遊ぶ人の1人だった

「あつそうだーーお菓子もつてきたの」

私はそう言ってじやりこを出す

「やつこつのこらな」よ……私の家で出すから……。」

たしかに里奈の家は豪邸でスゴくお金持ちだけど……。

私はじゅ りこをしまつ

ガチャ

みかんが里奈の部屋に来た

「ちよつとーー！あんた私の部屋はノックして入んなさい……わかつた？」

これなり怒り出す里奈にみかんはビックリしている

「『メンなさい』……でも、なんでノックするの？？」

みかんは謝りながらも質問する

「そんなの決まってるじゃないーー！きなり入ってきてビックリしない人がドコにいるのよーー！」

たしかにそうだけ…

「ふーんそなんだ！」

みかんは納得している

「里奈の使つてるマシーンは悪が取り付いている」

みかんは里奈が気づかなことのように私のほうに来て里奈に聞こえた
い声で言った

その言葉にビックリしながらも表情には出せないよつとした

「ふあー落ち着いたーー。」

もしかしたら機械から悪が乗り移ったの? いやしきつよつ・・・

「どうしたの? 琴音? ? 変な顔してーー。」

里奈が私の顔を見て心配そつた顔で見る

またも、みかんが「ツチに来て言つた

「里奈にも悪がついた! 悪を斬んなきやーー。」

第六話　一回戦のおじゆわーー

「里奈にも悪がついた…悪を斬んなきや…」

背中がゾクツとした

「神ロード…・オープン…」

またも知らないところ…・・・」はゞ「なのだらうか…・・・

「女神流第1機、神術の刀」

私の視界には人間の形をした不思議な物体から出てくる悪のかたまりとさつきの不思議な機械の形に似ている物体から出る悪のかたまり

「おりやあああ——」

私は悪のかたまりにむかって刀を向け走る

「誰も信じられない…・・・信じてビツなるの…・・・裏切られるだけじゃん…」

人間の形をした物体からは里奈の声が聞こえる

「琴音さん…」の声は里奈さんの本音です…・・・あつとこれ
はレベル3です」

「レベルつてあんのかよおおおおおおおおおお」

私は大きな声で言いながらも物体を斬つていへ

「里奈さんを説得しないとおわりません！…！」

「しょうがない…！」

「里奈…！…信じられな…って信じようとしてないのは里奈のまつじ
やないの」

「ちがうちがうちがう…私は前に裏切られた…！…信じてた人に…・・・

」

「じゃあなんで裏切られた辛さを分かりながらも信じないの…！」

「そんなのできない…・・・私には無理…・・・」んな出来損ないの私
になんか

「なんで出来損ないっていうの…？わからんないよお

「出来損ないだよ…勉強とかできるだけヨリヨリコーデーションもき
ちんとできないし…・・・」

「そんなことない…！…まだ未来があるじやん…なんで未来があるの
にそんなことをいうの…？」

「このまま生きるとまた信じた人に裏切られる…・・・そんなんだつ
たら未来なんかいらない…！…私は、私は、そんなんだつたら死んだ
ほうがマジだあああああ

里奈が叫ぶと悪のかたまりが固くなる

「やつだ！ もうイヤなら悪で満たしてあげよう。友達なんか信じる人なんかいるな。」

機械の形をした物体が言つ

「だから唯一こきついられる方法を私はとつた。それが悪いか！」

「ダメだよ。悪に全部乗っ取られてもいいの？？」

「いいよ。どうせ私なんか生きていなくとも生きても世界は何も変わらない。」

「そんな事ない！ ジャあ今日は誰の為に里奈の家で遊んだの？？」
里奈が遊びたいって言つたんでしょ……」

「そんな事言つて実際私のこと嫌つてるんでしょ……本音言こなさいよ……もうかまわなくてもいいよ」

「そんな程度のつもりで友達にならうとなんか思つてない……」

空間に次々に響く皆の声、私は里奈を救いたい……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9558z/>

神のおしおきゲーム

2012年1月5日17時52分発行